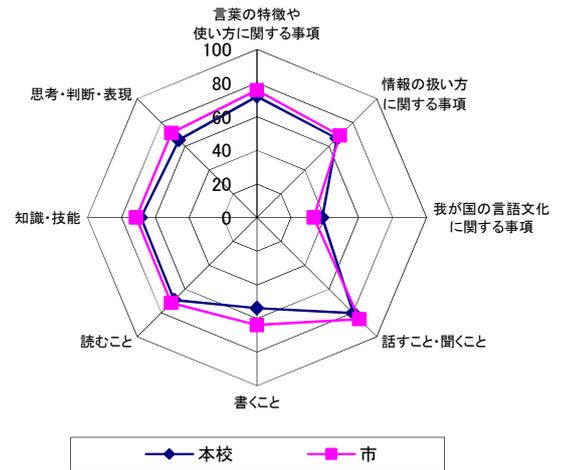


# 宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.1	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	66.7	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	38.5	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	80.3	85.5	86.5
	書くこと	53.8	63.9	65.8
	読むこと	69.2	71.6	69.5
観点別	知識・技能	68.5	71.3	72.9
	思考・判断・表現	65.3	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

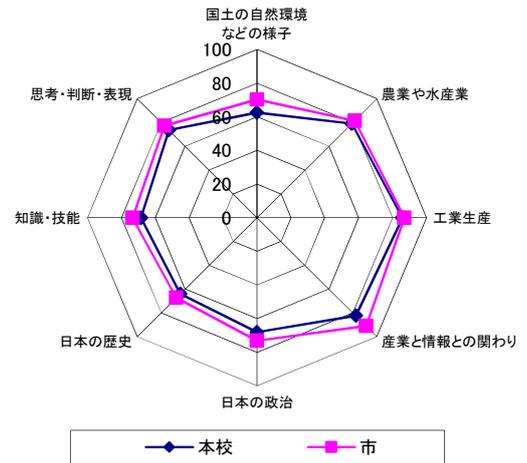
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市と比較して低い。 ○漢字を読むことに関しては、市の平均を上回っている。 ●漢字を書くことや、三字の熟語の成り立ちについての理解に関しては、市の平均を下回っていた。	・朝の学習やミニテスト、宿題などを活用し、基本的な言語についての学習や既習事項の復習を行い、基礎基本の定着に努める。 ・習った漢字を使うよう日常的に指導する。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市と比較して低い。 ●原因と結果など情報と情報との関係についての理解に課題が見られる。	・理由を表す言葉について理解を深め、自ら活用できるよう、文章を作ったり、順序を入れ替えたりして学ぶ活動を設定する。 ・教科を問わず、考えと理由について明確に表現する機会を増やす。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市と比較して高い。 ○和語・漢語・外来語についての理解に関しては、市の平均を上回っている。	・語句の由来や漢字の音訓について興味・関心をより深められるよう、日常的に国語辞典や漢字辞典の活用を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市と比較して低い。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているかを問う問題は、市の平均を上回っている。 ●話の内容を捉えることや、意図に応じて質問を工夫することに関しては課題が見られる。	・国語だけでなく、他の教科や学級活動など様々な場面で、互いの立場や意図を明確にしながらかし合う機会を積極的に取り入れる。 ・話し手の考えと理由や、話の要点に着目して聞くことの大切さについて、日常的に指導する。
書くこと	平均正答率は、市と比較して低い。 ○目的に応じて文章を書くことに関しては、市の平均を上回っている。 ●提示された条件下で、文章全体の構成や展開を考えて書いたり、予想される反論とそれに対する意見を書いたりすることについては、市の平均を大きく下回っており、課題が見られる。	・提示された意見に対する自分の考えを書いたり、反論を予想しながら自分の考えを書いたりなど、自分の考えを書き表す機会を多く設定する。
読むこと	平均正答率は、市と比較して低い。 ○説明文の叙述を基に文章の内容を捉える問題に関しては、市の平均を上回っている。 ●物語の登場人物の心情や様子を描写を基に捉えたり、物語の全体像を具体的に想像したりすることに関しては、課題が見られる。	・物語文の学習では、登場人物の言動から人物像や関係性について想像したり、場面の展開を意識しながら物語の流れを捉えたりする活動を取り入れる。 ・説明文の学習では、語彙力を増やせるよう、言葉の意味を調べる機会を設ける。また、文章全体の構成や筆者の主張を正確に読み取れるよう、接続語や問いと答え、具体例などを確認しながら読む活動を取り入れる。

# 宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	62.5	70.3	66.4
	農業や水産業	79.2	81.6	75.3
	工業生産	85.8	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	82.5	91.0	81.3
	日本の政治	68.1	73.2	75.3
	日本の歴史	64.1	67.4	68.5
観点別	知識・技能	68.4	73.5	72.5
	思考・判断・表現	73.6	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

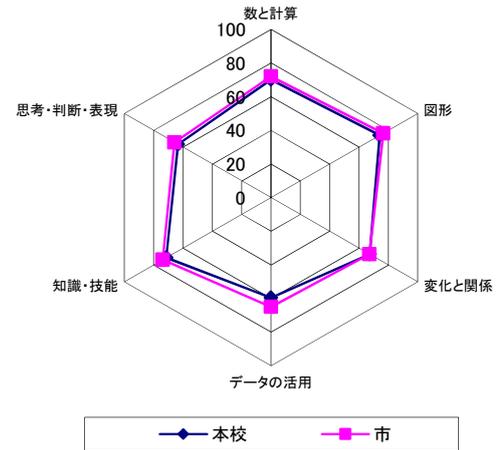
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は、市と比較して低い。</p> <p>○人工林の役割を問う問題の正答率は、市の平均正答率と同じでおおむね理解できている。</p> <p>●世界地図での赤道の位置や名称などの知識や近年日本で起きた自然災害の発生原因についての理解に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界地図の知識を深めるために、白地図にまとめたり、緯度や経度、赤道などの言葉を機会を捉えて復習を行ったりする。</li> <li>日本の気候と自然災害の関係について、まとめることで発生原因についての理解を深める。</li> </ul>
農業や水産業	<p>平均正答率は、市と比較して低い。</p> <p>○水揚げされた魚の出荷作業における工夫を資料を基に判断する問題の正答率が、市の平均とほぼ同じでおおむね理解できている。</p> <p>●米の生産が盛んな地域や米の品種改良についての理解に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を活用して考える力をつけるために、普段の授業で様々な資料を活用する機会を設ける。</li> <li>日本地図で日本の各地方の名称や場所についての復習を行う。</li> </ul>
工業生産	<p>平均正答率は、市と比較してやや低い。</p> <p>●自動車の製造工程や安全性の高い自動車作りについて、資料をもとに考えて問題を解くことに、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画資料や出前授業などを通して、工業生産への理解を深める。</li> <li>資料から読み取ったり、分かったことを文章で書き表したりする活動を取り入れる。</li> </ul>
産業と情報との関わり	<p>平均正答率は、市と比較して低い。</p> <p>○情報を生かした産業について考えることは、市の平均を下回っているものの、正答率は90%と高くおおむね理解していると言える。</p> <p>●情報の発信と受信の注意点についての理解に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報モラルを含めた情報機器利用の日常的指導、動画資料などを通して理解を深める。学習した内容を、文章でまとめたり表現させたりすることで、理解を深めることができるようにする。</li> </ul>
日本の政治	<p>平均正答率は、市と比較して低い。</p> <p>●租税の役割や日本国憲法についての理解に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の生活と結び付けてまとめたり、表現させたりすることで、理解を深めることができるようにする。</li> <li>知識の定着とともに、資料の読み取りや、新聞やタブレット端末での様々なまとめ方を体験させることで、思考力・表現力をさらに高めることができるようにする。</li> </ul>
日本の歴史	<p>平均正答率は、市と比較して低い。</p> <p>○織田信長や豊臣秀吉の業績についてや鎌倉幕府の政治のしくみを問う問題の正答率が、市の平均正答率を上回っている。</p> <p>●平安時代におけるかな文字についての理解に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容を総合して表現する活動を取り入れることで、知識の定着及び多面的・多角的に社会的事象を考えることができるようにする。</li> <li>分かりやすい図書資料を活用して、児童が歴史に興味関心をもって学習に取り組める環境作りをする。</li> </ul>

# 宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	70.2	72.1	74.6
	図形	74.1	76.5	76.1
	変化と関係	67.2	67.1	59.7
	データの活用	59.5	65.0	64.5
観点別	知識・技能	71.4	73.8	74.7
	思考・判断・表現	63.5	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

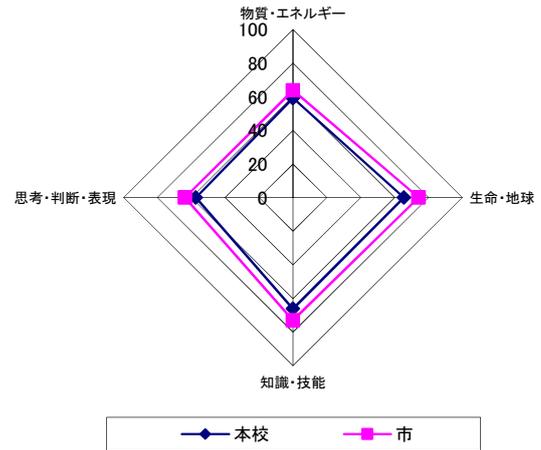
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市と比較して低い。</p> <p>○分数の乗法や除法の問題においては、平均正答率が市の平均を上回っている。</p> <p>●文字を使って、二つの数量の関係を1つの式に表す問題においては、市の平均正答率を下回っており、課題が見られる。また、分数の通分の計算においても、市の平均正答率を下回っていた。</p>	<p>・引き続き基本的な計算の力を身に付けられるよう、朝の学習、少人数指導等の時間を活用して、継続して指導していく。</p> <p>・計算スキルやAIドリルなどを活用し、繰り返して計算練習に取り組み、基本的な技能の習得を図る。</p>
図形	<p>平均正答率は、市と比較して低い。</p> <p>○平行四辺形や円の面積を求める問題では、市の平均正答率を大きく上回っている。また、線対称な図形において対応する点を求める問題においても、市の正答率を上回っている。</p> <p>●複雑な立体の体積を求める問題では、市の平均を下回っており、課題が見られる。</p> <p>●点対称な図形において、対応する2つの点を結んだ直線の長さや、正多角形の中から点対称な図形を求める問題では、市の平均正答率よりも下回っており、課題が見られる。</p>	<p>・基本的な問題を繰り返し解くことに加え、様々な応用問題に取り組む機会を増やしていき、図形の捉え方の幅を広げていく。</p> <p>・図形を構成する要素に着目して、面積や体積を求めたり、図形を折ったり回転させたりする活動を充実させ、理解を深めていく。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市と比較して、ほぼ同じであった。</p> <p>○車両と人数の割合から、どの路線が最も混んでいるかを求める問題では、市の平均正答率を上回っている。</p> <p>●速さと時間から道のりを求める問題では、市の平均正答率を下回っており、課題が見られる。</p>	<p>・問題に答えるときは、グラフと照らし合わせたり文章をじっくり読んだりしながら、問題の意図を正しく理解して、課題に取り組もうとする力を引き続き育てていく。</p> <p>・伴って変わる2つの数量の対応関係を、表・図・言葉を用いて整理し、変化のきまりを見出す力を育成していく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市と比較して低い。</p> <p>○値に0がある分離量の平均を求める問題では、市の平均正答率を上回っている。</p> <p>●ドットプロットから、最頻値を読み取る問題では、市の平均正答率を下回っており、最頻値の理解に課題が見られる。</p>	<p>・基本的な問題を取り上げ、基礎的事項を確認するとともに、何を問われているのかしっかり判断して問題に向き合えるよう、まとめの学習で意識して取り組ませていく。</p> <p>・社会科等他教科の学習資料や新聞などを活用して繰り返しデータの見方を確認することで理解を深め、データを活用する力を育てる。</p>

# 宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	59.2	63.8	61.6
	生命・地球	65.5	74.1	73.3
観点別	知識・技能	66.1	73.0	71.3
	思考・判断・表現	57.3	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市と比較して低い。</p> <p>○電磁石の基本的な性質やろ過における実験器具の操作、石灰水の基本的な性質においては市の平均を上回っている。</p> <p>●振り子のきまりや水溶液の性質では、振り子の周期の理解や条件の推測、水溶液の液性の理解や見分け方に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験するだけで終わらず、まとめたり分析したりすることで、理解の定着を図る。</li> <li>・実験から分かったことを活用して、条件を変えたときにどのような結果になるか発問して推測させる機会を設ける。</li> </ul>
生命・地球	<p>平均正答率は、市と比較して低い。</p> <p>○動物の体のつくりとはたらきでは、脈拍の働きについての理解が市の平均を上回っている。</p> <p>●流れる水の働きでは、実験計画から結果を推測したり、条件を変える方法を構築したりすること、生物とかんきょうでは、食物連鎖の理解や環境の変化による影響についての理解に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の理解の充実を図るために、観察・実験などを行うとともに、映像資料や模型、ICT機器を活用していく。</li> <li>・実生活と関連付けて考えさせたり、用語だけでなくその用語の意味や仕組みまで理解させたりすることで、学習の定着を図る。</li> </ul>